今度の新板

へ13
2867

ヘ13
2867

一寸見南枝臣（ちよいとみなんしに）
登志廼新板（としのしんはん）　上編
雁金文七俠客情史

市川三升作
五渡亭國貞画
甘泉堂鐫

文政九年丙戌陽春發鬻

やうやくく仁義禮智信五ッ連なる雁金の[illegible]
[illegible]ほ見へし[illegible]五手れ蛙や衣紋坂日[illegible]
も春の仲の町柳櫻の芳ふ露を含める海[illegible]
[illegible]原よ君あまたあるぞ此廓へ迷ふも悟[illegible]
塵の浮世の花川伊勢物語のむかし人を烏度仮[illegible]
ふ常に喜怒哀樂もなけ四ッの鐘へ上野か浅草の身は用心ふ
善悪の二階を廻らしまみるまよふと志かの云。
七代目三升ぬしのもとめにまかせて　五柳亭徳升誌

酔醒の水ちちや[illegible]ゆく
戊[illegible]

故本町庵の口説に曰く　五柳亭徳升戯述

迷やすく悟りがたし男女の道　夢うつゝあれ共

紅顔の二日酔　朱を注る花のうぶ浮気なる

風に揚屋の姿やさしく　ゆゝ麝香白粉を

粉ひたる袖の梅のうぶ匂　路をたづねよちよと

足をとめ　遊里就

空言と情の

仲の町闇夜

燈燭を照し

白昼の如く

五町の花無明

長夜の夢もりを

さまう可憐

色このゆる

壮客千金をくだく

七漂泊臨

命終時不隨者

ヲヤ馬鹿らしい法華の

ことを

只一心一向女人如菩薩

如夜叉及後生でざんせ仏菩提念仏

三昧なるとんでおざんせ此尊像苦界十年の

功徳も一刹那生涯悩はまことうんとの誓

願も汝元来無一物なりさひとりの元賢く

傾城を後世願ふ志あの所をの

花を踏つゝ分る色　寄も来まさぬ

東都の
鐘
江戸の藝
日々好
雁金文七実ハ恩地左近満勝が一子左太郎満政
男幸
幡隨蝶兵衛
極印千右衛門
実ハ和田和泉守
雷庄九郎実ハ
鷺地平九郎
政虎一子
九郎兵衛
虎九
安の平兵衛実ハ
八尾の別當琳幸の甥
早瀬平兵衛政兼
初丁の和ぐ
きくの初ひとの
政遠一子官次郎政常
布袋市右衛門実ハ松本佐兵衛
光政一子
市兵衛
光豊

玉水の
後ふ傾城
清川
かるた紙屋の
女房おたた
奥小性
お高

布袋屋
童子長屋の
萬歳
お亀
花岡
文七
後ふ
山川屋
權六
実ハ
三代正儀
後ふ傾城岩吹
嶋の内の
芸者 雛町

やぎうのうりのみくじ

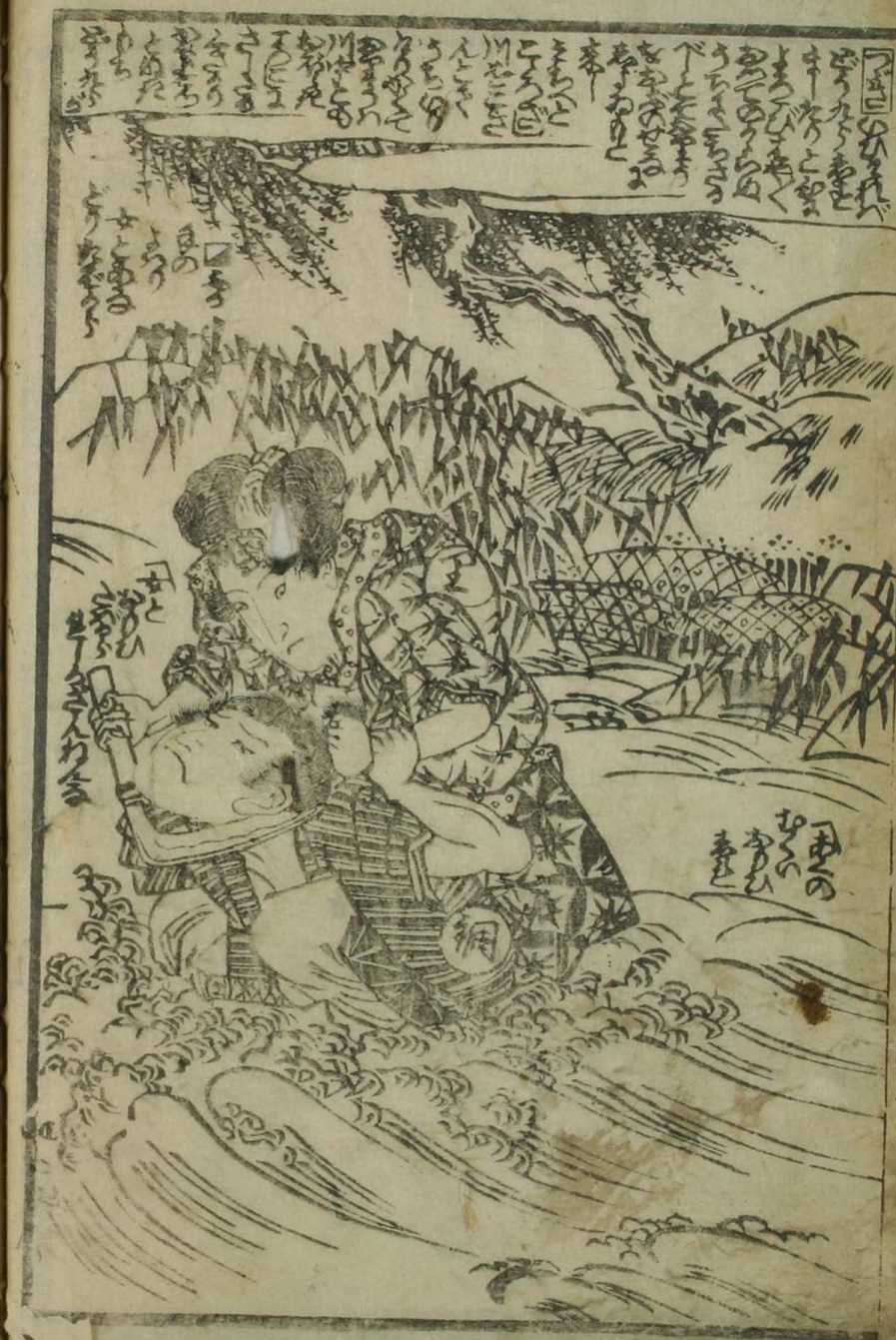
第三十一番末吉

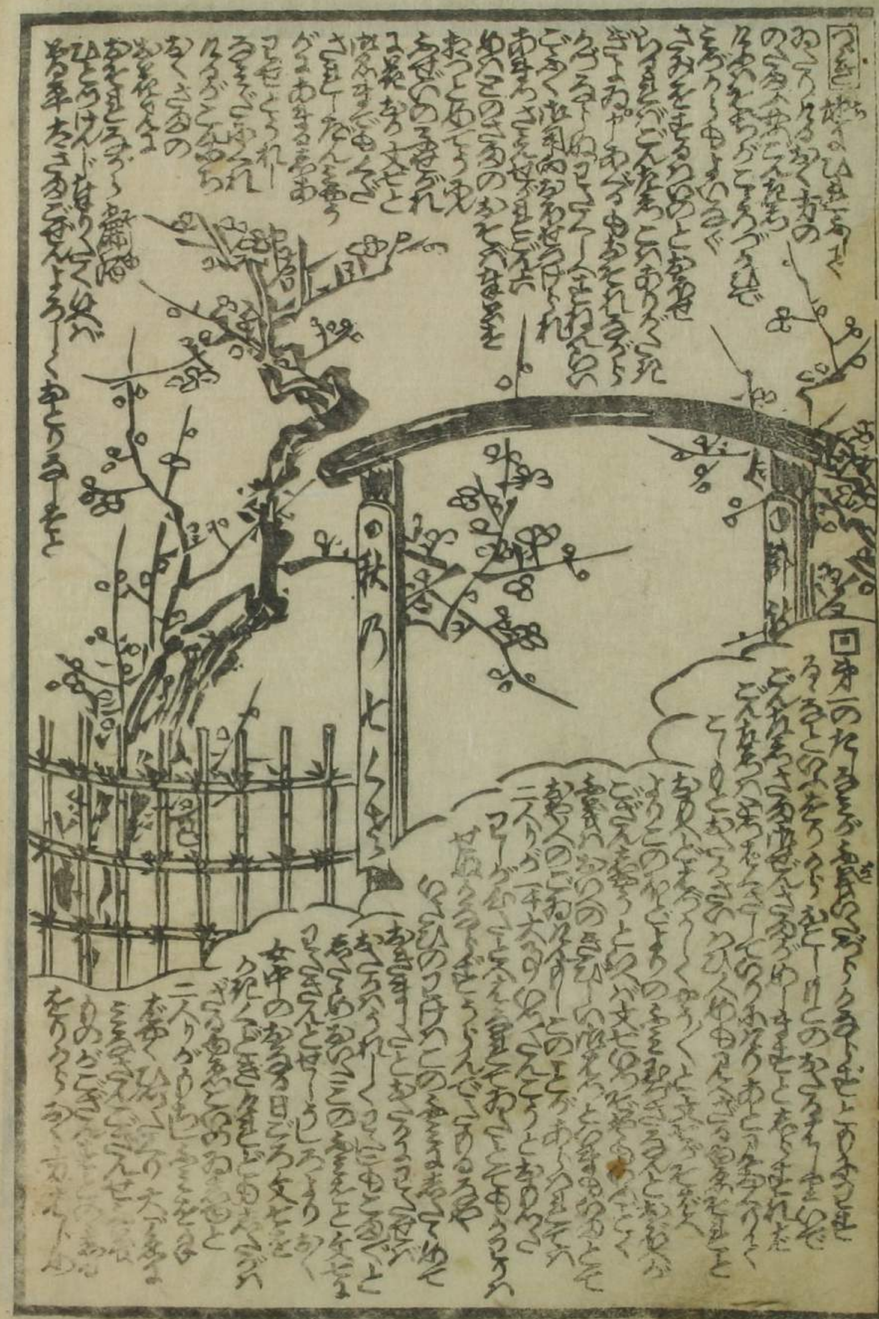
鯨鯨未憂時

旦守碧潭淇

風雲興巨浪

一息過天涯


網



今様の新板
国貞画
大田屋三升作
甘泉堂

市川三升作
歌川国貞画
五柳亭徳升校合
筆畊谷金川

一寸先の人生今様乃新板

下編

三升作　原合金之丈

國貞画　使客情史

丙戌春　甘泉堂上梓

帝国図書館印

雷正九郎
布袋の市右ヱ門
山川屋権六

五柳亭徳升
江戸子
金文七
安の平兵衛
極印千右ヱ門

文
岩

清
角

文
平

十
正
和
市

江戸京ばし
南てんまち
三丁目
いろり彩花
いろりの
あまさとうり
坂本氏製
美艶
仙女香
一包四十文

丁 清搗

ゆくたの川
おくるまの川

蝶
清

月

正

千

彫工音羽伊兵衛
筆畊谷金川
五柳亭德升校合